

平成20・21年度 教育研究所研究員研究

足利の教育風土を基盤とする郷土を愛する心の育成研究
～ 地域素材の教材化を通して見つめ直す足利の教育風土 ～

足利市立教育研究所

1 趣 旨

郷土には、それぞれの歴史があり、過去の先人により積み重ねられ守られてきた文化や伝統、自然などは、その地域の風土として、そこで生まれ育った者に大きな影響を与える。郷土を愛する心を養うことは、豊かな人間性の育成につながることであり、「足利学校のあるまち 足利」の教育風土の中で成長する本市の子供たちに、郷土である足利を愛する心を育成していくことは極めて重要である。

本市においては、「足利学校の教育目標」の1番に「郷土の自然や文化に親しみ、その保護・発展に努める」を掲げ、その具現を目指し、各種講座の開設や社会科副読本「のびゆく足利」の作成・配付などを通して、郷土に対する意識の高揚を図るとともに、平成19年度からは、各小中学校で、足利学校を会場として論語の素読体験を実施するなど、学校における郷土の学習を支援しているところである。また、各学校においても、地域の方々を招いて郷土の歴史や文化などについて学んだり、地域調べや地域探検等を通して地域のよさの発見に努めている。

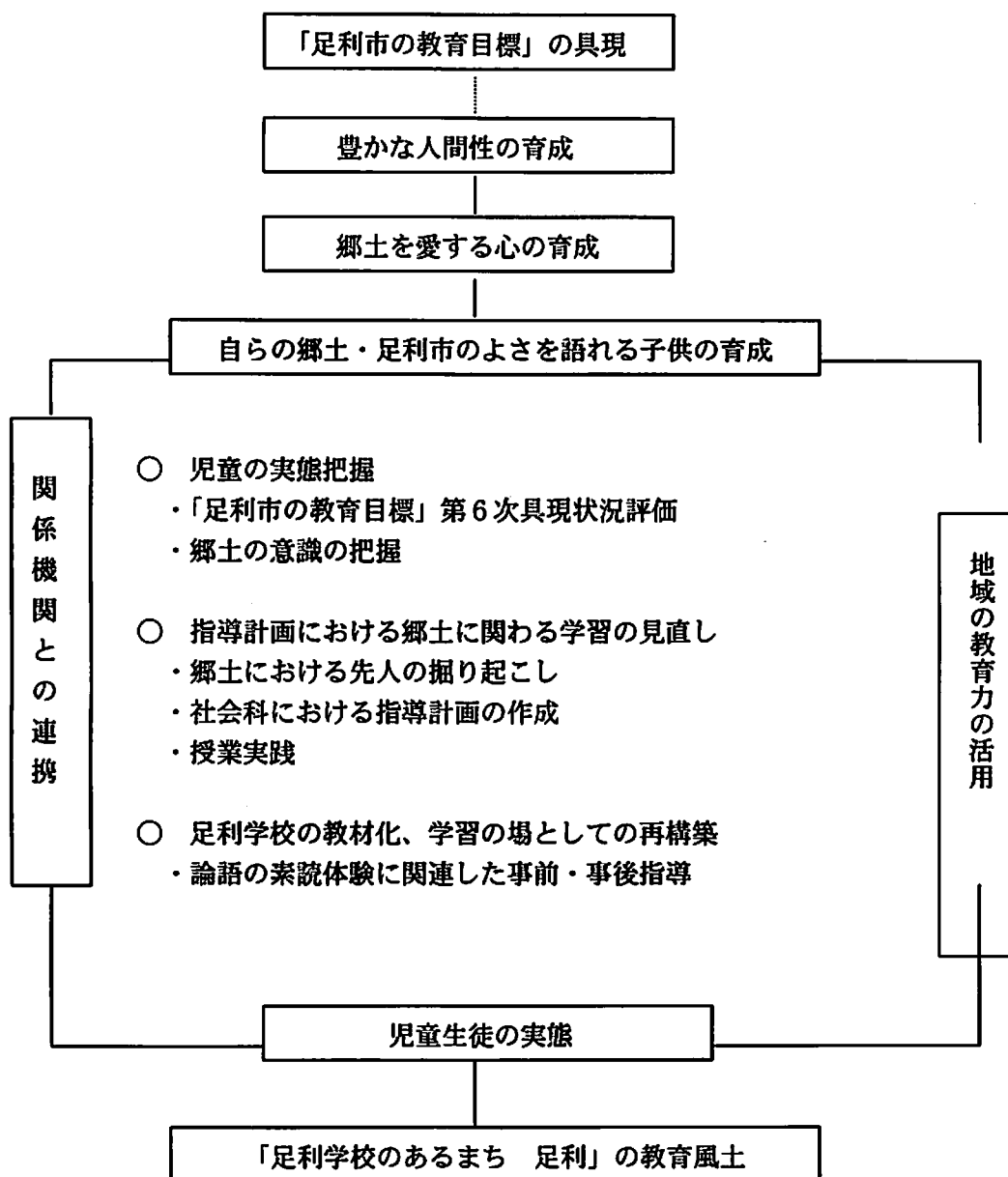
しかしながら、今日の子供たちの状況に目を向けると、地域の文化や自然に触れる機械が限られ、地域の人々との関わりも少なくなってきており、本市の行った諸調査の結果からも「足利学校のあるまち 足利」に対する意識高揚が課題となっている。

また、今回の学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、国際社会に生きる日本人としての自覚をもたせるためにも、郷土の文化や伝統についての理解を深めることが、より一層重要となってくると考えられる。

そこで、郷土愛を育成する観点から、各地域で活躍した先人を掘り起こし、社会科副読本「のびゆく足利」を、各学校でより有効に活用するための資料づくりや授業実践を行う。実践を通して子供たちが、本市の文化、自然について学ぶことにより、子供たちが郷土と自分との関わりについて考え、より積極的に郷土に関わるような心情や態度を育てていきたい。

なお、本研究においては、「足利学校のあるまち 足利」の象徴的な存在である足利学校についても、論語の素読体験の場として、活用することも視野に入れていく。

2 研究推進構想



3 研究を進めるにあたっての考え方

(1) 対象学年 3・4年生とする。

(2) 考え方の関連図

郷土を愛する心が芽生える必須条件としては

まず、自分の地域のことを知る

関連単元 (社会)

- わたしのまち足利
 - ・学校のまわりを歩こう。
 - ・足利市の地図を広げて

- 昔の暮らし、今の暮らし
 - ・市や町に残る昔調べ
 - ・古い建物調べ

- かつやくした先人たち
 - ・足利学校を守った人たち
 - ・身近な先人を調べよう。

<基本的な考え方>

- 見て
 - 聞いて
 - 感じる
- 郷土学習

<方法>

- ・見学する
- ・関係者に話を聞く

<研究員の主な活動>

- ・各地区の先人を一人、ピックアップして、見学先、関係者への聞きとりについて、リサーチする。
- ・見学、聞き取りの学習を入れた指導計画を作成し、実践する。
- ・まとめる。(成果と課題等)

私の地域はすごい！こんなに活躍した人がいるということがわかる

郷土を愛する心
郷土を誇りに思う心

(3) 研究の内容

- 郷土を愛する心を育むためには、どんなことが大切になるか、子どもの目線に立って考える。
- 金井繁之丞(板倉)に関連する粟谷神社、郷土資料館について巡検を行い、見学、聞き取りについて体験する。
- 各地区の先人一人を選び、その先人を知るための見学場所、話を聞ける人をリサーチする。

○指導計画を作成する。

4年「かつやくした先人たち」

指導計画づくり

① 地元の先人の見学計画を入れる。(各地域1名)

○場所

○問い合わせ先

} リサーチ

mapにおとす

②足利学校の見学計画も入れる。

③コンピューターの資料の活用法

○どの場面で

○どのように使うのか

④年表にまとめる

手紙を書く

○各学校で、指導計画に沿って実践し、成果と課題についてまとめる。

4 研究計画

<平成20年度>

(1) 第1回研究会 6/30(月)16:00~

生涯学習センター201号室

○研究構想・内容、研究計画の検討

○研究協議

○その他

(2) 第2回研究会 8/12(火)9:00~

三和地区 巡検

○粟谷神社

○金井さん宅

○郷土資料館

(3) 第3回研究会 2/2(月)16:00~

生涯学習センター201号室

○研究の方向性の確認

○研究協議

○その他

<平成21年度>

(1) 第1回研究会 6/25(木)16:00~

生涯学習センター201号室

○研究構想・内容、研究計画の確認

○研究協議

○その他

(2) 第2回研究会 8/6(木)13:30~

生涯学習センター学習指導教材センター

○マップ作成

○指導計画作成

(3) 第3回研究会 10/27(火)16:00~

生涯学習センター学習指導教材センター

○作業状況の確認

○指導計画検討

○その他

(4) 第4回研究会 1/22(金)16:00~

生涯学習センター学習指導教材センター

○授業実践の成果と課題について

○まとめについて

身近な先人を調べよう

指導時数 6時間

◆小単元の目標◆

自分の身近な先人について調べ、その工夫や努力、地域の発展や文化の向上にかける情熱を知り、人物や地域に愛着を感じる。

観点別達成目標

- (1) 社会的事象への関心・意欲・態度
 - ・ 身近な先人について関心を持ち、進んで調べようとする。
- (2) 社会的思考・判断
 - ・ 身近な先人の努力や苦心を考えることができる。
- (3) 観察・資料活用の技能
 - ・ 資料やコンピューター、身近な地域の遺産の見学、地域の人に話を聞くことにより調べることができる。
 - ・ 調べたことをわかりやすくまとめることができる。
- (4) 社会的事象についての知識・理解
 - ・ 身近なところに地域の発展に尽くした先人がいたことが分かる。
 - ・ 身近な先人の努力や苦心が分かる。

◆研究過程◆

() 内の数字は配当時間数

問題の把握 (1)

- ・ 身近な先人への関心をもつ。
- ・ 小単元の学習について見通しをもつ。

問題の追及 (4)

- ・ 身近な先人の業績について調べる。

まとめ (1)

- ・ 身近な地域に産業や生活、文化の向上に尽くした先人がいたこと。
- ・ 身近な先人の情熱、努力、苦勞を、共感的に考える。

小単元	2 身近な先人を調べよう	(1 / 6)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちが住む地域の先人について知っていることや調べたいこと、見てみたいものなどについて話し合いながら、学習の関心を高める。 ・ 学習計画を立てる。 	
学習活動	主な支援と留意点	資料
<p>1. 自分たちの住む地域の産業や文化の向上に尽くした先人には、どのような人がいたのか、話し合う。</p> <p>身近な先人を調べよう</p> <p>2. 身近な先人について調べてみたいことを考える。</p> <p>3. 学習計画を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前もって、家の人や地域お年寄りに聞いておけるとよい。その場合、これまでの聞き取り調査の事例を振り返らせ、インタビューの項目などを整理すると、過去の学習を生かすことができる。 ・ 本文の図や図書室や校長室にある図書から自分たちの住む地域の先人について知る。 ・ 先人の働きや苦心が地域の人々の生活の向上に大きな影響を及ぼしたことを意識できるように支援する。 ・ この後、実際に見学に行くことを伝え、学習計画を立てる。 	P133

小単元	2 身近な先人を調べよう	(2～5/6)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 資料やコンピューターなどの調べ学習や身近な地域の遺産の見学、地域の人材に話を聞くことを通して、先人の働きや苦心が地域の人々の生活の向上に大きな影響を及ぼしたことを調べることができる。 	
学習活動	主な支援と留意点	資料
<p>1. 図書資料やコンピューターを使って調べる。 (1時間)</p> <p>2. 身近な地域の遺産を見学する。 (2時間)</p> <p>3. 地域の人などから実際に話を聞く。 (1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 見学の前に、調べ学習をさせることによって、ねらいや問題意識をもって見学できるようにする。 見学を通して、自分たちが住む地域の先人たちの働きや苦心を身近に感じることにによって地域に愛着や誇りがもてるようにする。 先人たちを実際に知る地域の人などから実際に話を聞くことにより、自分たちが住む地域の先人たちの働きや苦心を詳しく知り、地域に対する愛着や誇りがさらにもてるようにする。 見学先で話が聞ける場合には、合わせて行ってもよい。 自分が考えてきた質問や見学をして出てきた疑問についてたずねる。 見学をして改めて知ったことや見学後の考えて書き留めておく。 	

小単元	2 身近な先人を調べよう	(6 / 6)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の発展に尽くした先人の働きや苦心について考えるとともに、地域の人々の生活の向上に大きな影響を及ぼしたことが分かる。 	
学習活動	主な支援と留意点	資料
1. 先人の働きや苦心についてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなまとめ方があるが、どのようなまとめ方をするのか考えを出し合い、自分なりの効果的なまとめ方ができるように働きかける。 ・まとめ方の表現において、次の点をおさえてまとめさせるよう心がける。 <ul style="list-style-type: none"> ① どんなことを調べてきたのか。 ② どんなことがわかったのか。 ・それぞれがまとめたものを見合う時間を確保し、さらに、たしかなまとめができるよう心がける。 	

地区別 身近な先人 連絡先等一覧

	地区名	先人名	功績	見学先等	
				見学先・人物等	場所
①	旧足利市	田崎 早雲	誠心隊設立 絵画作品	早雲美術館 長林寺(墓)	西宮町
		丸山 芳良	俳人 俳句集	長林寺(墓・句碑)	西宮町
		岡崎清一郎	詩人 詩集	岡崎龍太郎(子息)	大町
		木村 浅七	織物	足利織物記念館	助戸町
		上岡 た津	教育関係 白鷗大学設立	柳田定雄 (白鷗高校講師)	伊勢町
②	毛 野	飯塚 播種	教育者 神宮	生家(無人) 長瀬好成(親戚) ※ 生家見学の場合、長瀬氏に許可を得る。	大沼田町 生家の隣 (大山祇神社)
③	山 辺	堀米 源太	八木節の普及	宝性寺 (堀込築師) 山田恵一 八木節振興センター	堀込町
④	三 重	峯岸 政逸	考古学の先駆者 足利公園 3号墳発掘	生家 (曾孫さんが住む) 足利公園3号墳 岩崎昱夫	今福町
					今福町
⑤	山 前	根岸 茂吉	和算家 和算塾	根岸憲一 (商工会議所) 地福院(墓) 日枝神社	通り3丁目 桐生市梅田町
⑥	北 郷	相場 朋厚	足利学校 保存に奔放	光明寺 (渡辺和子) 生家(野内) 法楽寺(墓)	
⑦	名 草	田部井安勝	和算を習得	大宝寺	名草中町
⑧	富 田	人見 竹洞	儒学者	雲竜寺(墓) 養老碑	西場町 西場町
⑨	矢場川	荒井勝一郎 (矢場勝)	八木節の 普及に貢献	明林寺(墓) 八木節振興センター	里矢場町

	地区名	先人名	功績	見学先等	
				見学先・人物等	場所
⑩	御 厨	岡村 勇	三栗谷用水の改良を進めた	八坂神社（石碑） 生家 （木村善廣 管理） 田沼武平 （生家隣人 親戚） 御厨土地改良区 （91才まで理事長）	島田町 島田町 島田町 福居町
⑪	筑 波	前橋真八郎	農業	前橋祝子（子の妻） 永宝寺（墓）	小曾根町
⑫	久 野	室田 忠七	鉍毒運動のリーダー	生家（岩木 曾孫） 山田秀徳 寿徳寺（墓）	
⑬	梁 田	長 祐之	鉍毒調査 足利ガス 電話の設置 小学校設立	長重之（孫）	
⑭	三 和	金井繁之丞	織物の技術を考案	正蓮寺（墓） 郷土資料館 （阿弥陀の紋織り） 三和公民館	
⑮	葉 鹿	近藤 南泰	医者 天然痘治療	近藤歯科医 千蔵院（墓）	葉鹿町 葉鹿町
⑯	小 俣	木村半兵衛	織物買継商 政治家	長福院 （初代～4代墓） ふるさと資料館 小林信雄 （木村半兵衛顕彰会会長） 義倉跡	小俣町

実践事例（旧足利地区－木村浅七）

4年生 社会 「かつやくした先人たち」

1 小单元導入における授業の展開

(1) 展開

①導入・前時復習 相場朋厚・・・足利学校の保存に尽力（足利で活躍）

- ・「足利で活躍した人・有名な物は？」・・・(児) 農産物・花火・八木節・織物
- ・「織物の発展に努めた人はだれ？」・・・(児) 知らない→調べてみよう。

②課題提示

身近な先人たち→ 副読本 P 1 3 3 マップ提示

学区やその周辺

「学区の先人はだれ？」・・・木村浅七 (児) 知らない。

織物の発展に関わっているよ。

「木村浅七について調べよう」

「何の写真？」 (児) 知ってる・・・興味大



写真1 木村浅七旧宅



写真2 織物記念館

「木村浅七について調べる方法を考えよう」

調べる方法は

- (児) ・パソコン
- ・本・図書館
- ・助戸公民館の人に聞く

- (教) ・家の人に聞こう(身近な人)
- ・繊維業の家の子いるね、今も織物関係あるね。

(2) 板書

身近な先人たち

木村浅七（きむらあさしち）

・おり物の発展につくした。

(知りたいこと)

- ・どんなおり物を作ったか。
- ・工場はいつ作られたか。
- ・何でおり物を始めたか。
- ・いつの人（いつ生まれた）か
- ・どのくらい作ったか
- ・工場や事務所でどんなことをしていたか。

写真
1

写真
2

のびゆく足利
マップ
P 1 3 3

学習計画

- ・コンピュータ
- ・本
- ・見学（織物記念館等）
- ・インタビュー（文化課の人）
- ・まとめの新聞
これまでのまとめ
方をいかして

(宿題) 家の人にインタビュー

2 導入段階における成果と課題

既習の相場朋厚についてふれ、足利で活躍した人・有名な物を話し合った。、児童の意見

の中から織物が出たのをきっかけに、そこから、本校学区周辺で活躍した先人である木村浅七に結びつけ調べ学習の対象とした。木村浅七について知っている児童はいなかったが、織物記念館・旧木村宅は多くの児童が知っており、木村浅七にも十分に関心をもったようだ。写真提示効果は大きかった。また、児童の保護者には繊維業に従事しているものもおり、現在の生活にもつながりがあることを意識付けることができた。学習計画については児童と話し合いながら考えたことで、児童の主体的な学習につながったと思われるとともに。学習計画内に見学を位置づけたことは、調べ学習への意欲喚起になったと思う。さらに、「木村浅七について家の人に聞くという宿題は、書物やコンピュータから知識を得るだけでなく、人とのかかわりの中で学ぶという点において、有効であった。

3 単元のまとめにおける新聞作り

本クラスは、社会科の学習において学んだことを、新聞を作る形でまとめてきた。そこで、これまでの学習をいかし、本単元においても新聞形式でまとめることとした。新聞の記事は、コンピュータで調べたこと、見学やインタビューで分かったことや感想などである。



児童作品1



児童作品2



児童作品3

4 小単元を通しての成果と課題

本学習では、課題の追究にあたり、コンピュータによる調べ学習と、織物記念館見学・文化課の方へのインタビューを行った。コンピュータでは、広く一般的な知識を得、見学・インタビューを通して、詳細な知識を得ると同時に、先人の足跡を示す多くの物品を見て、調べている先人をより身近に体感することができた。木村浅七は地域住民にとっても、決して認知度が高いとは言い難く、初めてその名前を耳にする人は少なくない。しかし、学習を終えた児童の多くは、「自分たちの身近にこんなにすごい人がいたんだ」と、驚きや感心をもっていた。改めて、地域の先人を尊敬するとともに、自らの住むこの郷土に愛着の念をもったようだ。

学習を進めるに当たっては指導計画に無理がなく、本校にとっては見学などもしやすいことから、今後も続けていくことができる。

本校においては、対象となる先人の資料が豊富であったことや見学場所が近いという地理的条件に恵まれていた。しかし、市内の各地域において同様の条件を満たすことは難しい。今後は、それぞれの地域で、それぞれの先人に関する資料等を、さらに充実させていく必要があると思う。

実践事例（三重地区－峯岸 政逸）

1 小单元名 身近な先人を調べよう

2 本時の指導 5 / 6 時間目 <地域の人などから実際に話を聞く>

3 講師 岩崎 昱夫（いわさき いくお）先生 （三重地区在住）

※ 事前に打合せをもち、4年生の児童が、先人について学習することを通して、郷土を愛する心をもつことができるような内容について検討する。

4 学習の流れ

(1) 三重地区全体にかかわる歴史について

① 「三重」の由来

・大岩村、五十部村、今福村の3つの村が合わさってできたので三重となった。

② 三重地区の地形

・昔は、船の行き来があった。（西舟という地名がある。）

③ 三重地区出身の先人たち

・川島長十郎・・・三重小学校を創る。足利織物業界に多大な貢献をする。

・堀越善重郎・・・足利織物業界に多大な貢献をする。

(2) 峯岸政逸について

① いつごろの人か

・1846年（江戸時代）～1916年（大正時代）

② 何をした人か




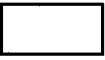
・1886年（明治19年）、足利公園の3号墳を発掘
（日本で最初の古墳発掘）

③ 生家は

・三重地区（今福町）にあり、現在、曾孫にあたる方が住んでいる。

・孫にあたる方（壮一氏）の油絵が、三重小の廊下に飾ってある。

5 板書

三重地区の昔の地図	政逸の生家	足利公園3号墳	「ようこそ足利公園古墳群へ」 (市教委文化課発行)
			
			

(写真)

6 児童の感想

- 岩崎先生の話を書き聞かなかったら、普段通っている道なのに、峯岸政逸さんの生家がわからなかった。
- 峯岸政逸さんの生まれたところが今福町だと知り、びっくりしました。自分でも生家を見に行きたいです。
- 三重にすごい人たちがいっぱいいたなんて、知りませんでした。それに、岩崎先生が三重小出身でわたしたちの先輩だったので、とてもうれしかったです。
- 岩崎先生にパンフレット（「ようこそ足利公園古墳群へ」）を用意していただきました。けれど、岩崎先生から、パンフレットに書いてないこともくわしく教えていただき、勉強になりました。

7 考察

- 峯岸政逸さんの話にとどまらず、三重地区全体にかかわる歴史について聞くことができ、児童たちは興味深く聞くことができた。
- 三重小の最初の学校を創った川島長十郎さんについてもお話があり、135年の歴史ある三重小が、どのように設立され今日に至ったかがよくわかったようだ。
- 足利学校の宰主となった人の中に、2名の三重地区出身者（14代、17代）がいたという話を聞き、「三重はすごい！」という気持ちが強くなったようである。
- 峯岸政逸さんの生家が、自分たちの住んでいるすぐ近くにあることを知り、「こんな近くにすごい人がいたのか！」と三重を誇りに思う気持ちが強くなったようである。
- 日本で最初に古墳を発掘調査したのは峯岸政逸さんであり、全国から多くの考古学者が見学に来たという話も、児童たちにとって、大変印象に残るものであった。
- 「のびゆく足利」では学べなかった詳しいことを知る、大変貴重な学習となったようである。
- 自分の住んでいる地区の先人について、詳しく学ぶことで、児童は、自分たちの住んでいる地区を誇りに思い、ふるさとを将来にわたって愛し続けていこう気持ちの素地ができると思われる。

8 授業の様子



実践事例（御厨地区－岡村勇）

I. 授業展開（本時・・・1／6）

①足利学校を守ったのは、相場明厚であることを思い起こさせる。

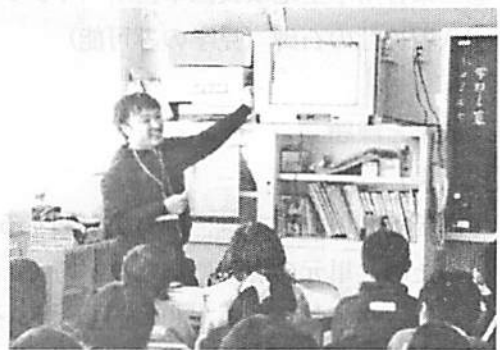
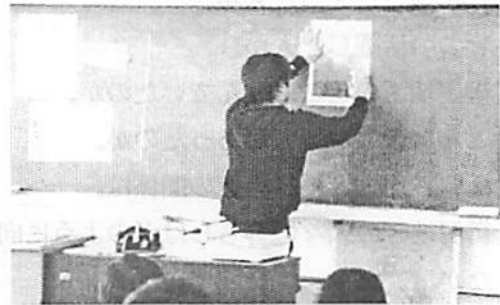
②自分たちの住んでいる地区には、地域のために力を尽くした先人はいないかを考えさせる。

③御厨地区のために力を尽くした先人の一人として、岡村勇を紹介し、顔写真を提示するとともに学習目標を知らせる。
『御厨地区のすごい人を調べよう。』

④岡村勇の功績が分かるように編集したVTRを見る。

VTRの内容 ～岡村勇さんはすごい！～

1. 銅像が建てられている。
(福居町の三栗谷用水土地改良区敷地内にある銅像の映像)
2. 記念碑が建てられている。
(島田町の八坂神社境内にある記念碑の映像)
3. 御厨地区の町長さんにもなっている。
(足利郡御厨村郷土誌をめくる映像)
4. 岡村さんのことが書かれている本や新聞記事が残っている。
(新聞記事や本の映像)



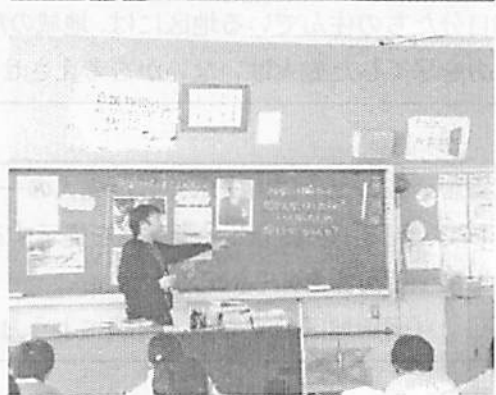
⑤岡村勇について調べてみたいことを考えさせ、発表させる。

【調べてみたいことの例】

- ・どんなことをした人か。
- ・いつ頃活躍した人か。
- ・御厨地区のどこに住んでいたのか。
- ・どんな苦労や努力があったのか。
- ・三栗谷用水と岡村勇との関係は。
- ・御厨地区の人々の暮らしはどのように向上したか。

⑥次時からの学習計画を立てる。

- ・どんな方法で調べるか。
- ・どのようにまとめるか。



II. 見学先 (今回は未実施)

- ①岡村勇生家 (見学のみ可能)
- ②田沼武平治宅 (岡村勇氏の親戚) (インタビューが可能)
- ③三栗谷用水土地改良区事務所 (インタビューが可能)
- ④八坂神社の石碑 (見学のみ可能)



岡村勇生家 (改築前)

III. 成果と課題

【成果】

- ・御厨地区においては、岡村勇に関する予備知識をもっている児童が少ないと思われた。そのため、単元の導入にあたる本時で、氏名と顔写真を提示するとともに、その功績の素晴らしさを感じられる VTR を見せた。そのことが、児童の興味関心を高めるには大変有効であったように思う。
- ・調べる方法として、教育研究所の HP を活用したが、岡村勇の尽力が地域の人々の生活の向上に多大な恩恵をもたらしたことを児童は十分に感じ取ることができたようだ。

【課題】

- ・遺産の見学や地域の方へのインタビューを実施することで、より学習を深めることができると思う。可能な限り実施したい。
- ・今回、児童には、調べたことを主に年表形式でまとめさせた。(資料参照) 今後は、児童にまとめ方を工夫させ、より効果的なまとめ方ができるようにしたいと考える。

【まとめ方の例①】

足利市の先人について調べよう 4- () 名目

調べた先人	岡村 勇 (1880~1971)
調べてわかったこと	岡村勇は、御厨村役場の職員にとなり、足利郡役所の職員にとなり、御厨町長に選ばれました。御厨普通水組合の職員になり三粟谷用水を管理する人となりました。岡村勇は三粟谷用水の工事をいっしょうけん命にこめました。勇さんはおたうと同じ御厨小学校に通っていて卒業をしたそうです!!
1880年	4月20日島田町に生れる。
1904年	御厨村役場の職員になる。
1911年	足利郡役所につとめる。
1913年	御厨普通水組合の職員になる。
1931年	御厨町長に選ばれる。
1933年	三粟谷用水の双線改良事業計画を立てる。
1936年	工事が始まる。
1968年	工事が終わる。
1970年	三粟谷用水土地改良区の理事長とつとめる。
1971年	11月15日、亡くなる。
感想・その人にひとこと	岡村勇さんは、三粟谷用水をつくりました。今三粟谷用水があるのは、岡村勇さんが工事をしてくれてくれたからだと思います。勇さんのおかげです。

足利市の先人について調べよう 4- () 名目

調べた先人	岡村 勇 (1880 ~ 1971)
調べてわかったこと	岡村家は、江戸時代の村の手とめ役(名主)だった。みくりや小学校を卒業した。うつの宮の船田兵吾のところで勉強したが、病気で体が弱く、半年ほどで帰ってきた。その一年後、東京のきんじゅ中学校を出て、明治法津学校に進学したが病気のたもとで中絶して、1902年に病気を治すため足利に帰ってきた。
1880	4月20日、島田町に生まれる。
1904	みくりや村役場のしゅく員となる。
1911	足利ぐん役所につとめる。
1913	みくりやみづ水組合のしゅく員になる。
1931	みくりや町長に選ばれる。
1933	三粟谷用水の双線改良事業計画を立てる。
1936	工事が始まる。
1968	工事が終わる。
1970	三粟谷用水土地改良区の理事長をつとめる。
1971	11月15日亡くなる。
感想・その人にひとこと	体が弱かったのに、みくりや用水の工事を30年以上もつづけて、すごいと思いました。 （みくりや用水のために何年も考へて、えらいと思います。）

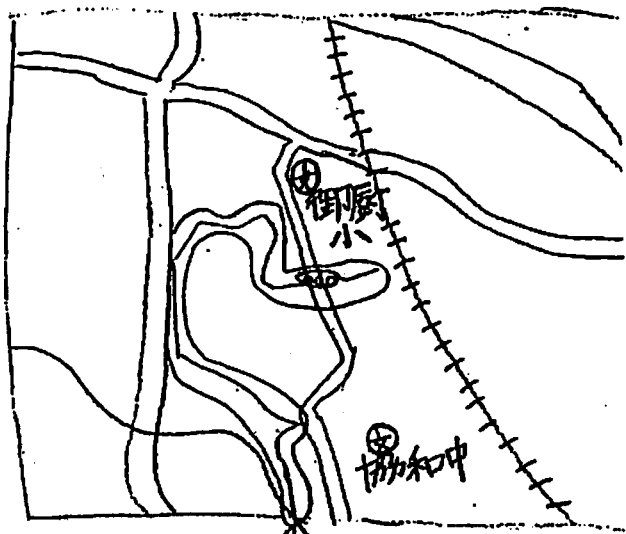
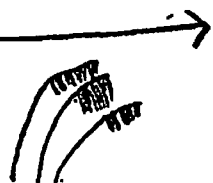
【まとめ方の例②】

<p>岡村 勇 (おむら いちむ)</p> <p>1880年(明治13年) 4月20日、島田町 411番地生れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸時代には村のおとめ役(名主)だった家の人 御厨じんじゅウ校等小学校(今の御厨小学校)を卒業した。 卒業後、宇都宮の船田兵吾(作新学院をつくらた人)のところで勉強した。→病気で体が弱く半年で帰ってきた。 東京の錦城中学校を卒業。 明治法津学校(今の明治大学)に進学。 <p>病気のため中絶。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1902(明治35年) 病気を治すため足利にもどった。 1904(明治37年) 御厨村役場のしゅく員となる。 1911(明治44年) 足利郡役所につとめる。 1913(大正2年) 御厨みづ水組合のしゅく員になる。 1931(昭和6年) 御厨町長に選ばれ、三粟谷用水を管理する人となった。 1933年(昭和8年) 三粟谷用水の双線改良事業計画を立て政府に原簿を提出した。(金銭と水不足をなくすため) 1935年(昭和10年) 国が三粟谷用水の工事を、おたうに。 1957年(昭和32年) S.N.I.ほう章をとった。 1968年(昭和39年) くんぎぎぎぎぎ日章をとった。 	<ul style="list-style-type: none"> 1968年(昭和43年)でまあがた。 1970年(昭和45年)三粟谷用水土地改良区の理事長とつとめる。 1971年(昭和46年)11月15日亡くなった。 <p>感想</p> <p>わたしたちの身近な 三粟谷用水なのに今まで「たれか」つづけたのかなど 考えたことがありませんでした。この勉強で、岡村さんが つくったということをして、とてもためになりました。</p>
--	---

岡村勇ってどんな人？

三粟谷用水

岡村勇が作った
三粟谷用水は、
御厨のお米を、
育てるのに役立っ
ています。



三粟谷用水

岡村勇は、1880年(明治13年)4月20日島田町に生まれました。けれど、病弱だったため、大学を中たいし、病気をなおすために、足利に帰ってきました。

1904年(明治37年)、人にたのまれて、岡村勇が、24才の時に、役場の職員になり、1913年からは、御厨普通水利組合の職員になりました。そして1913年に町長に選ばれ、用水の管理をする人になってから、本格的に用水にかかわりはじめました。三粟谷用水は、1570年(元禄元年)に作られたといわれます。明治時代から、山で人々が毒に苦しめられていると知り、水が通、てくる所をよくする計画を立て、改修をねばり強く願ひ、1935年に工事が始まりました。工事は5回に分けられました。このように岡村勇は努力とくろうをかさね、御厨をよくしたのです。

実践事例（久野地区－室田忠七）

1 導入の工夫

（1）今までの学習内容を生かす

- ・相場朋厚（足利学校を守った人について学習した）→久野地区にも人々のために活躍した人が誰かいたのではないか。
- ・足利学校や足利の先人をパソコンで調べるときに、室田忠七のことをノートに記録していた児童がいた。
- ・浄水場の学習→水の大切さ→地区に流れる川・・・というように視点をふくらませてみる。

（2）自分たちで考えたり、想像させたりする

①忠七の写真（コピー）を見せ、いつの時代で何をした人かを想像させる。

〈時代〉服装→現代ではない。自分の祖父母よりずっと前の時代
国語「一つの花」の戦争より前？

〈何を〉「久野地区の大ピンチ」という言葉からヒントを与え思考を広げる。
洪水のとき、火事のとき、戦争の空爆のとき人助けをした？
川の水を使って何かをした？など

②昔の久野地区の様子を想像させる。

・店がない（車で買い物に行けない。）→食料は自給自足→水がないとみんなの先祖（久野村民）は生活できない→水の大切さ

（3）忠七の活躍の背景となる必要な歴史的事実を教師が教える。

- ・足尾銅山鉍毒問題（川の汚染でおきた被害）
- ・田中正造、天皇直訴など（時代の背景をおさえる）

（4）自分たちの問題としてとらえさせることにより、興味・関心を深める

相場朋厚さんがいなかったら足利学校は現代に残らなかったかもしれない。→
室田忠七さんがいなかったら今の久野地区はなかったかもしれない。→
今の自分たちがここで生活できるのは・・・→忠七さんのおかげかもしれない。
忠七さんのことをもっと知りたい。久野小の近くに生まれた家があるんだって。
すごい、調べに行こう！

2 見学した場所

- | | |
|----------------------|--|
| （1）室田忠七生家
71-9433 | 写真、忠七日記、田中正造直筆の手紙や掛け軸などが多数保存されている。忠七のひ孫、岩木さんよりお話をうかがう。 |
| （2）寿徳寺
71-9130 | 田中正造の碑（室田忠七の名前などが記されている）。
室田家の墓 |



(室田忠七生家 見学)



(寿徳寺 田中正造碑 見学)

3 児童の学習のまとめ

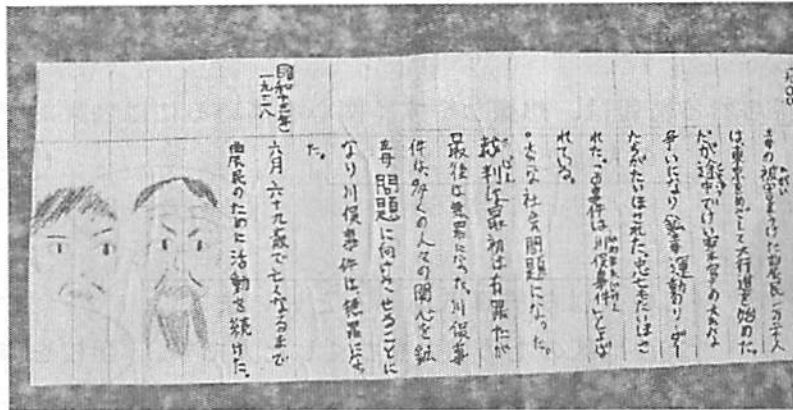
(1) 新聞 (忠七新聞)



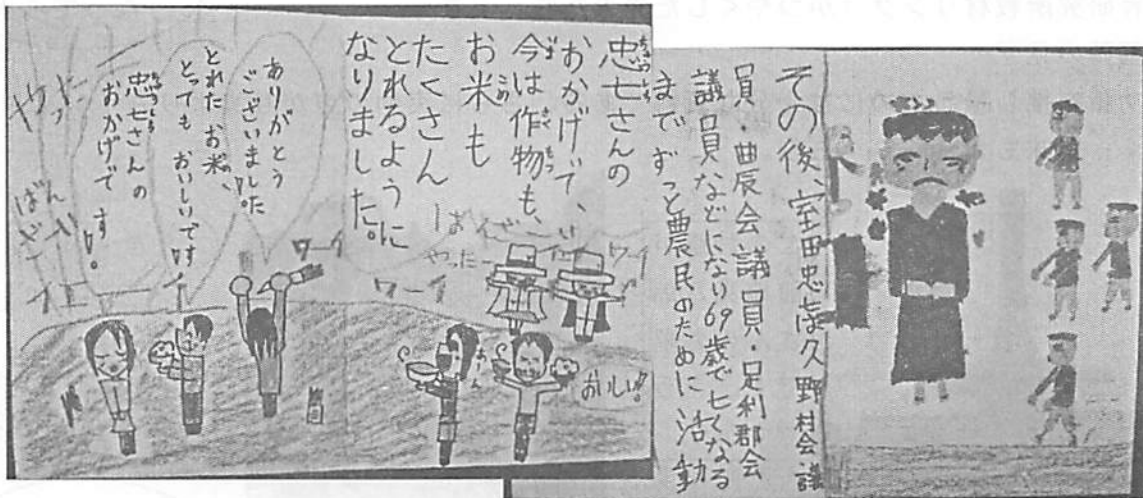
(2) 紙芝居 (室田忠七さん物語)



(3) 巻き物 (忠七さんの一生)



(4) 本 (室田忠七さんの一生)



4 成果と課題

- ・自分たちが通っている小学校から歩いていけるところに、すばらしい先人がいたことを知ったり、その人たちの努力のお陰で今の自分たちの生活があるということを実感したりすることによって感謝の気持ちをもつことができた。
- ・図書やインターネットを使って学習するだけでなく、実際に見学したり、地域に住む方々から話をきくことによって、学習への興味・関心が高まった。
- ・時代の背景や自分たちの地域にある川について考えることにより、既習の内容を生かして自分たちで考える力が少しずつ身についてきた。
- ・自分たちの身近な地域について学習を進めていくうちに、郷土への誇りや愛着が芽生えてきた。
- ・授業の流れや地域の教材をさらに研究して、次年度につなげていきたい。
- ・児童は学習したことや調べたことをそれぞれの方法でまとめていた。調べたことを学習発表会などを通して他の学年の児童や地域の方々にも発表し、郷土を愛する心をさらに広めていけるとよいと思う。

実践事例（筑波地区一前橋真八郎）

1 興味・関心を高めるための教材との出会い

(1) 肖像画から

視覚から得られる情報は、想像しやすく関心を高めるには効果的である。



この人はだれでしょう？

しらな～い

だれ～？

むかしの人！

この人は前橋真八郎さんといいます。
筑波地区のために力をつくした人です。
さて、どんなことをした人でしょう？

学校を作った人

おさつに
なってる人

教育研究所教材リンク「かつやくした先人たち」より

(2) 墓碑の見学

功績を推し量るためには十分な資料である。さらに実物の方が写真よりもインパクトが強く、興味も大きくふくらむ。



このお墓が
前橋真八郎
さんのお墓
です。どう
ですか？



大き～い

えらい人
だったんだね

どんなことを
した人
なんだろう？

前橋真八郎氏の墓碑がある永宝寺で見学（学校から徒歩で約10分）

2 意欲的に課題追究するための人との出会い

(1) 学習の見通し

課題追究前にゆかりの方から話を聞く学習活動を予定していることを告げることで、学習への意欲が高まる。

これから前橋真八郎さんについて調べていきますが、後ほど真八郎さんの子孫の方に学校に来て、お話をさせていただこうと思っています。

子孫が
いるんだあ

がんばって
調べなきゃ

まずはコンピュータを利用して、調べてみよう。
教育研究所教材リンク「かつやくした先人たち」
を利用しての功績調べ

このことがよくわからないよ。
今度、子孫の人が来たときに
聞いてみよう！

(2) 先人ゆかりの方との出会い

真八郎氏の子息の妻である祝子（のりこ）さんから話を聞くことにより、課題追究への意欲が高まり、地域の先人がよりいっそう身近な存在へととなった。

今日は、前橋祝子さんに来ていただきました。真八郎さんのことをたくさん教えていただきます。

自宅にあった田中正造直筆の掛け軸を持参してくださり、思わぬお宝をお目にかけることもできた



田中正造直筆の掛け軸

3 学習のまとめは新聞に



4 成果と課題

(1) 成果

- 自分たちの地域の先人を追究することで、現在の地域の礎を知ることができ、地域への愛着を深めることができた。また、先人にゆかりのある人や史跡と実際に出会い、ふれあうことでよりいっそう先人を身近に感じることができた。
- 調べる対象を一人に絞ったことで、学習支援もしやすくなり、内容の濃い学習をすることができた。

(2) 課題

- 先人ゆかりの方の講話や史跡の見学等は、事前の計画・準備から当日の授業までかなりの時間を要してしまうので、より効果的な指導計画を練る必要がある。
- 先人ゆかりの方の話では、学習のねらいからややそれてしまったので、事前により綿密な打ち合わせをすることが重要である。

研究のまとめ

(1) 研究の成果

- 各地区において一人の先人を絞り込み、見学の場所や話を聞ける人を調べ、情報を提供する資料を作成することで、どの教師も手軽に取り組める「見て・聞いて・感じる」郷土学習を提案することができた。
- 研究員の各学校で、見学計画を入れて作成した指導計画を実践することにより、授業改善が図れ、実践事例を提示することができた。また、その実践の児童の表情や感想等から、先人を尊敬し、郷土を誇りに思う気持ちをみとることができた。

(2) 今後の課題

- 副読本「のびゆく足利」に記載することを通して、本研究の周知を図る。
- 授業実践後、子どもたちの思いを発信する機会を設け、地域へも広げる活動も展望する。

平成20年度研究員

前原 仁 (桜 小学校)
阿部 聡 (三重小学校)
高野 純子 (久野小学校)
山崎 修二 (筑波小学校)
渡邊友紀子 (御厨小学校)

主担当指導主事 久保 恵子

平成21年度研究員

前原 仁 (桜 小学校)
阿部 聡 (三重小学校)
高野 純子 (久野小学校)
山崎 修二 (筑波小学校)
若林 香織 (御厨小学校)

主担当指導主事 久保 恵子